ＮＰＯ法人　ハッピー　広報誌　　2023年１月発行　Ｎｏ．20

ハッピー 通信

本部 〒890-0032　鹿児島市西陵１丁目８－７　TEL 099-282-7408　FAX099-296-1733　（事務局 TEL 099-283-6120）

謹んで新春をお祝い申し上げます。

皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

また、旧年中は、多大なるご尽力をいただき、本年も、更なる高みを目指して努力してまいりますので、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成から令和へと移り変わり、もう四年が経とうとしております。この数年、コロナウイルスに悩まされ、翻弄され、大なり小なり皆様も気分の落ち込み等を体験されたのではないでしょうか。ましてや、障害をもつ子どもも大人も同様に大変な思いをしています。暑い中でのマスク、あらゆる行動制限、楽しい給食の時間は黙食あるいは壁に向かって食べる等々。数え上げればきりがありません。

「令和」に込められた願い、それは万葉集からの引用だと言うことでしたが、「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」と奇しくも今年銃撃に倒れられた「安倍晋三首相」が説明されていました。

この「令和」に込められた意味が引用元と同じかどうかはさておいて、このコロナウイルスと一刻も早く誰もが共存できる環境となればまた「心を寄せ合い、文化を育む」ことが思いっきりできると。

世界情勢に目を向けると、ロシアによるウクライナ侵攻。ロシアによる無差別的な攻撃により、たくさんの人々が亡くなっていて、まだまだ終わりそうにありません。一方戦場からそう離れていないアラビア半島の東にあるカタールでは、サッカーのワールドカップが行われ、世界から多くの人々がスタジアムに応援に駆け付けていました。日本チームの活躍に心躍らせた一人ではありますが、地図を開いてみて、やるせない気持ちにもさせられました。美しく心を寄せ合い、もっともっと豊かな文化を生み育てる世の中であってほしいと願うばかりです。

今年の干支は癸卯(みずのと・う)です。これまでの努力が花開き、実り始めることに期待し、兎のように飛躍し、皆様の生活が大きく向上する年になって欲しいものです。

最後になりましたが、ご支援いただいている皆様のご健勝とご多幸を祈念し、新年の挨拶とさせて頂きます。

ＮＰＯ法人ハッピー事務局長　有村　正恵

子育て　～ 地域の方々と ～

子育てサポートどんぐりは、西陵の住宅街にあり、子ども達が遊具や虫取り、草ソリなどを楽しめる公園がたくさんあります。

そんな公園への行き帰りで、ご近所の方々とすれ違う時に子ども達と一緒に挨拶をすると「もじょかね～」と言いながら目を細めて挨拶を返して下さったり、公園内で遊んでいても「お宅は、〇〇さん（前迫さんの旧姓）のところね。元気じゃが。」とウオーキングの足を止めて声を掛けて下さったりする方もいます。中には、「ちょっと待っときなさい。」と言って、子ども達の遊び道具にとチラシで作られたお手製の紙飛行機や紙鉄砲を頂いた事もあり、子ども達は初めて見る紙鉄砲に『何、なに？』と興味深々。そして、勢いよく鳴った大きな音に目が点に・・・なんてことも！。(^^)

子ども達も地域の方々と挨拶を交わす度に声も大きくなったり、どんぐりの前を通りすがる方にも子ども達から挨拶をするようになったりしています。これも偏に、地域の方々が温かく見守って接して下さっているお陰だと思います。

今後も地域の方々との繋がり、関わりを大切にしながら、子ども達の成長を見守っていけたらと思います。（矢野）

これからも　大切にしていきたい

スクラム　～民生委員さんによる奉仕作業～

東京在住の篤志家、濵嵜さんから無償貸与されて22年。スクラムの敷地は広く、垣根もあり、みどり豊かで開放的な環境です。スタッフで毎朝掃除や手入れはしていますが、伸びた垣根の枝や木々の手入れ、室内の細かい汚れたところなどはなかなか手が回らない状況があります。その状況の中で、毎年1年に1回、地域の民生委員さんの取り組みとしての清掃作業があります。伸びた垣根や木の伐採、室内の床のよごれや空調設備のよごれの掃除など、日々の掃除では出来ない隅々までの環境整備を一生懸命してくれる地域の方々。

子ども達が過ごす環境、そして私たちスタッフが仕事をする環境が、決して法人だけで成り立つものではなく、地域の方々に支えられて成り立っているということを毎年実感しています。「子ども達のために、地域の福祉施設のため」に、と滝涙と汗を流される地域の方々の姿に、自分が行っている「福祉」という仕事に対する姿勢についても背筋が伸びるような気持ちになります。

事業所運営、そして活動。自分達だけで成り立つものでもなく、地域の方々あってこそ。ありがとうの感謝ともに、特別な配慮が必要な子ども達の存在を発信していきながら今後も地域に根差したスクラムでありたいと思います。（森）

スクラム　～インターンシップ学生さんとの育ち合い～

昨年度の夏休みから大学生のお兄さん、お姉さんがインターンシップ（職業体験）としてスクラムの活動にボランティアで参加してくれるようになりました。

子ども達、学生さん共に反応は様々。お互い最初は緊張したようなちょっと固い雰囲気でスタートしますが、共に過ごしてくうちに“このお兄ちゃんと一緒にお弁当食べたい♪”と指名してみたり…“お姉さんに絵本読んでもらおうかなぁ”と渡してみたり…子ども達の方から関わっていく姿も増えていきます。初めは学生さんの方がドキドキしている様子です。徐々に子ども達を知り、ちょっと肩の力が抜けていくそんな姿が初々しくていいなぁ～。

インターンシップとは社会に出る前に仕事の場を体験してみる事で、スクラムでの体験を希望した学生さんたちの履歴書には様々な志望動機が書かれています。どの学生さんも「もっと〇〇な自分になりたい」という思いを抱いていることを感じます。まだまだ自分づくり真っ最中の学生さんたちにとってスクラムができることは何かなぁと考えます。

すぐにはわからなくて戸惑うこともあるけれど、焦らずじっくりと共に過ごす中で見えてくる子ども達の気持ちやだんだんわかりあっていく喜びや楽しさを感じてもらえたらいいなぁと私は思っています。そして…大人の私たちが何かしなくても、子ども達こそが学生さんの中に大きな何かを残してくれているように感じます。そんな様子をみながら、改めて育ち合う場所としてのスクラムを感じています。（児玉）

つなぐ、つながる　想い

開　～ボランティア・まりこさんへインタビュー～

Q. サポートセンター開にボランティアとして来ていただいて、何年ほどになりますか？

A. 早いもので１３年になります。

Q. 今もボランティアに来ていただいていますが、これほど長くかかわってくださる理由は何でしょうか？

A. 子どもたちの笑顔に会いたい！という気持ちと職員の方々の本当に優しい指導等、いつも感動して同じ時間を共にしたい！との思いです。

Q. これまでたくさんの活動に力を貸して頂きましたが、まりこさんが印象に残っていることを一つ教えてください。

A. 心に残る思い出はたくさんありますが、みんなで長崎や大阪へ行ったり、夏のキャンプの時の子ども達の笑顔です。

Q. まりこさんにとりまして、サポートセンター開でのボランティアはどういったものでしょうか？率直なお気持ちを教えていただけたらと思います。

A. 最初電話で前迫先生に私は未経験でできるものか…と話したところ、ただ子ども達と一緒にいて隣にいてもらうだけでいいとお聞きしてそのことを思いながら続けてきました。子ども達が元気に楽しく暮らせるように願っています。

学齢期の今思うこと～自立に向けて～

今年度スクラムには17名の児童生徒が在籍しています。その半数以上が中高生。体も心も大きく変化し揺れながら大人になっていこうと日々を重ねています。

そんな今、親御さん達が抱いている将来の自立に向けての不安や希望を今回は取り上げてみようと思います。

Aさん
特別支援学校を卒業した後の生活が心配です。暮らしの場として入所を希望していますがどの施設も待ちの状況の様です。どうなるのかとても不安に感じています。

Bさん
実際にどんな就労の場やスタイルがあるのか知りたい。コロナ禍でPTA実施の見学会等も実施や参加が難しくなっている。自分の子どもに合った仕事内容や力を発揮しながら充実した日々を過ごせる場を探したい。

Cさん
本人のメリハリある生活や充実した生活、きょうだい児のことなど考えると卒業後は入所して働く場に通えるといいなぁと思っている。場所や雰囲気に慣れることに時間がかかるため、将来生活の場として希望する施設の放課後等デイサービスに通ったり、ヘルパー支援を利用したりしてつながりをつくっている。

Dさん
中学部からは作業的な学習が始まり、高等部では更にそのような時間が多くなっていくと感じています。働く充実感とともに、自分の時間を豊かに過ごし生きていくという事も大事にしたいと考えたときに、学生の今何を感じながら、どう学ぶ環境を創るか悩む時があります。

Eさん
お父さんがしている仕事の下請け的な内容で就労できたらかっこいいなぁと思っています。作業内容によってはできるようになるだろうなぁと希望を持っていますが、ジョブコーチなどの支援をもらえるのか、職場や社会のサポート体制がどうなのか気がかりです。

Fさん
馴染みの場所では自分を発揮して過ごすこともできるが、場や人に対して自己表現の差や波がある。不安になると行かないということもあるかもしれないと思うと心配。高等部の実習先選択など準備にも慎重になる。

スクラムに通う子ども達の親御さんそれぞれに悩みがあります。内容は異なりますが、その子らしく健やかに豊かな日々であってほしいと願う思いは同じだと感じます。そんな日々を創り出していくために今できることは何かを考え合えたらいいなぁと思います。

それぞれの親御さんが持っている情報を交換できる場があること、そのようなことを繰り返しながら相談し考え合える関係が築かれていくことは心強いのではないかと思います。時には先輩親子の話を聞いてみるのもいいかもしれません、参考になるSNS情報を紹介し合い今の情報に触れていくことも安心に繋がるかもしれません。学校、相談支援事業所、様々な繋がりの中で一緒に手探りしよりよい日々を創っていきたい、そう思います。（児玉）

青年成人期の今思うこと～自立に向けて～

この4月から社会人になったサポートセンター開の親子にインタービューし、学校を卒業する前の思い、卒後の今の思いを教えていただきました。

どんな日々を過ごし、どんな大人になって欲しいか…どんなことをして、どんな大人になりたいか…親子の様々な思いに触れてください。

まなさん母への質問

□働く場所を選ぶ際のポイントは何でしたか？

実習での反応や作業内容、施設の空気感やスタッフの対応がポイントでした。
また母(私)の仕事との両立ができることも考えました。

□不安な事や心配な事がありましたか？

開はほとんど馴染みのあるスタッフでしたので、作業内容についていけるかだけ不安でした。
A 福祉センターは高等部の実習からのお付き合いなので、今信頼を築いている段階です。

□大変だったことは何でしたか？

私の場合は、私の仕事との両立が難しかったです。

□今のまなさんを見て率直に感じることは何ですか？

いっぱいいっぱいで今頑張っていると思います。
"むずかしい、できない、へたくそ"と自己評価が厳しく、足が重くなる時もあります。自己評価の基準をゆるめたいです。

□良かった事・嬉しかった事などありましたか？

"ゆう""A 福祉センター"と今頑張れていることに感謝しています。

□この先、どんなまなさんになってほしいですか？

自信と共に落ち着き、また違う課題が出てくると思います。
そんな時に自己否定しないで心にゆとりを持ち楽しんで課題に向き合ってほしいです。

まなさん(19歳)への質問

□仕事をしてみて楽しいことは何ですか？

刺し子。色々な色で縫うことが楽しい。
畑。野菜の水かけを「おいしくなーれ」といいながらかけるのも楽しい。

□これから頑張りたい事はありますか？

刺し子で点を上から下に、下から上にきれいに縫えるように頑張りたい。
色々な色を使って、かっこよくてかわいい商品を作りたい。

□仕事をしてみて大変ことは何ですか？

調理の人参の細切りが難しいかな。

□将来の夢(やりたいこと等)ありますか？

お仕事の勉強をしてみたい(色々な道具の使い方など上手になりたい)
色々な曲でダンスを踊ってみたい
旅行にいきたい(東京、ディズニーランド)
ディズニーオンアイスを見て見たい。

□得意な仕事は何ですか？

お弁当の盛り付け、ご飯を入れるのが早くできます。
唐揚げの混ぜるのも好きです。
野菜の収穫も好き。

なかまが仕事に合わせるのではなく
なかまに合わせた仕事を

～サポートセンター開 食品加工班の歩みから～

皆さんにご協力いただいている物販や、各所のバザーで販売されるパンや焼き菓子。中にはリピーターになって頂き、知り合いの方にお勧めしてもらいロコミで広がっていく商品もあります。現在ではこのようにご好評をいただいておりますが、最初の第一歩は困難なものでした。

現在のスクラムの職員室に、「小規模作業所 開」として事業がスタートした頃、当時のなかまが、なんとかして取り組める仕事はないものかと考えていました。

現在もサポートセンター開に通所しているなかま達、その中の一人のなかまは泥遊びが好き（手に伝わる感触の心地よさ）だったということで、パン作りはどうかと、スタッフで「コンコンブル」という発酵せずに簡単にできるパンを作ってみることにしました。

しかし、出来上がったものを食べてみると「食べられるけど、美味しいかと言われたら…」という感じでした。そこで、パン屋さんで勉強させてもらい、少しずつ誰かが喜んでくれるものになっていきました。

現在の食品加工班は、前述のとおり色々な方に「美味しい、また食べたい」「注文お願いします」と言われるほどの商品を作っていますが、「なかま達の仕事」として、ほとんどの工程をなかまが担っており、それぞれが得意な事や出来る事を活かして協力し合って作っています。

～仕事創りと社会参加～

もちろん、食品加工班だけではなく、ハッピー班の公園掃除や刺し子作品、スマイル班の油吸い取りパックや封筒セット、ゆう班のお弁当やお惣菜等も同じです。

スタッフの「仕事になかまを合わせるのではなく、なかまにあった仕事を創る」という意識から、どうすれば手応えや充実感を持って仕事に取り組めるかを、なかまと一緒に試行錯誤してきました。

なかま達の興味・関心やリズムを理解して、仕事を分析しどうすれば取り組めるようになるのか。机の配置など環境の工夫、使いやすい道具の準備、自分の役割を感じられるようになかま同士のつながりなどを考慮して取り組みます。なかま達も、少しずつできるようになっていく自分、必要とされる自分を感じながら、その仕事を自分のものにしていっていると思います。

なかまが仕事を通して社会とつながる。私たちはその仕事が、なかま達がやりがいや手応えをもって取り組めるように、方法や環境などの工夫を行い創っていく役割を担っているように感じています。（大石）

グループホーム(GH)の取り組みと支援を考える

GH でコロナ感染者発生！！

新型コロナウイルス第 7 波がピークに差し掛かろうとしていた 8 月のとある日、「A さん、コロナの疑いがあります」という利用作業所からの連絡が入りました。

・・・・来たか！という思いとさてどうしょう！まずは病院に連れて行かなければ‼新規感染者数 5000 人越えの状況…病院へ電話するもののなかなかつながらず、今日の受診は難しいかもしれないと半分諦めかけていた時でした。「最終の時間でよければ診ることができます」という GH 近隣の病院とつながり、受診がかなうことになりました。感染疑いの A さんは高熱ということもあって静か…スムーズな受診となりました。そして、案の定陽性反応！ 病院で「他グループホームでも感染者の方が増えていると聞きます、大変でしょうが一緒に乗り越えていきましょうね！」と言葉をかけていただき、患者のみならず支援者として、これからの対応や支援に勇気をもらったことが強く心に残っています。

今思うと短時間で支援の方法を考え決断していかなければならなかった時に、これまでのスタッフ間でのガウン等の着脱方法などの学習やシミュレーション等、研修で学んだことが力になり実践できたのではないかと振り返ります。

職員同士「感染対策をしっかりしていれば大丈夫！感染された方を守りましょう」と声を掛け合い
①感染者の命を守る事　②他の利用者さんへの感染を広げない事　③職員が感染しない
この 3 点を感染拡大防止の目標に定めスタートしました。

Ⅰ 施設色分けゾーニング
- 赤 ：感染した A さんを隔離、他利用者さんとの接触を完全遮断
- 黄 ：スタッフがガウンを着脱、消毒するゾーン
- 緑 ：感染していない利用者生活ゾーン（食堂兼居間 、トイレ等）

Ⅱ 感染防止のためのショートスティの受け入れ中止

Ⅲ スタッフ体制の制限、スタッフの感染を広げないためにスタッフ同士が接触しないよう午前勤務と午後から夜間の2交代にし，基本的に正規職員での対応にしました。

以上のような極めて必要なことを確認し合い、GH=利用者の暮らしの場での取り組みができました。

A さんは初期段階で病院受診でき服薬の効果もありました。不安やストレスもあったことでしょうがさすがにいつもと違う気配を感じられたのか、しっかりと安定して療養できました。GH 利用の一人ひとりを考えると感染者支援は異なってきます。感染者対応の難しさ、支援のありようはまだまだ工夫や考える余地があります。

また、いつも一緒に生活しているなかまは「A さん、大丈夫かなぁ・・」と呟いたり「絵手紙を渡して欲しい」という姿も見られ、困った時にはお互い支えあう、そんな『福祉の原点』のような光景を感じることができました。そんな姿がまた私たちスタッフの励みになったような気がします。

まだまだ終息する気配の見えない新型コロナウイルス、数年前からすると多くのことを私達の日常から奪ってしまいました。ですが、決してマイナスなことばかりではなく「困った時はお互い様」「with～共に」そんな言葉が今まで以上に聞こえてきます。困難を乗り越えた先にきっと明るい未来がやってくることでしょう。マスクを外し大きな声で心から笑える日が来ることを切に願います。（西田）

教えて、ハッピー先生!! ～乳幼児期から就学まで～

今回は、就学に向けての準備として、どんな事があるのか！学校について知りたい！など乳幼児期から就学に向けての流れや就学されてからの様々な放課後の過ごし方についてお話しますね。 （ハッピー先生）

Q:学校の様子を知りたいけど、前もって見学できるの？

A:はい、できます。見学につきましては、各学校の教頭先生が窓口になっています。

Q:就学相談って何ですか？

A:学校（クラス）を迷われており、お子様にとって適しているのはどこかを教育委員会へ相談する事が出来ます。その後、検査等の結果が届くので、参考にしながら就学先を検討することが出来ます。基本的には保護者の方から申し込む必要があります。

※申し込み～7 月第 1 週まで
就学相談期間～9 月から 11 月

Q:放デイはどこがいいの？

A:色々な事業所があるので、相談事業所の方に相談しながら、お子様にあった所を探されて、見学にも行かれたらいいかもしれませんね。

【学 校】

地域の学校
- 通常級
- 支援級～１人ひとりがニーズにあった教育を受けることを目的とした８人が基準の少人数クラス
- 通　級～基本的に通常級にいますが、一部指導が必要な際に週数回程度、通う教室

特別支援学校～自立を促すために必要な教育を受ける学校

【放課後】

児童クラブ　（小 1～6 年まで）
小学校の余裕教室や児童館等を利用して適切な遊び及び生活の場を供給し、健全な育成を図っています。

放課後等デイサービス（小 1～高校まで）
集団での関わり方、生活能力向上および社会との交流促進等を継続的に提供しています。

事業所一覧

児童発達支援事業所　子育てサポートどんぐり
鹿児島市西陵 1 丁目 8-7
TEL：099-282-7408　FAX：099-296-1733

放課後等デイサービス事業所　スクラム
鹿児島市西陵 1 丁目 45-3
TEL：099-283-6130　FAX：099-296-1231

生活介護事業所　サポートセンター開
鹿児島市西別府町 2794-29
TEL：099-283-6120　FAX：099-204-0134

共同生活援助事業所　グループホームハッピー
短期入所事業所　　ハッピーホーム
鹿児島市直木町 3399-1
TEL：099-295-4312　FAX：099-295-4315

☆　賛助会員を募集しています　☆

NPO 法人ハッピーでは地域の中でも誰もが安心してひとりの人間として生活していけるように地域生活サポートに関する活動を行い、暮らしやすい町の創造と地域福祉の推進を図ります。私たちの取り組みにご理解くださり、賛同して下さる方を広く募集しています。皆様のご理解とご支援の下、地域に根ざした福祉の向上に努めます。どうぞ宜しくお願い致します。詳しくは本部までお問い合わせください。

賛助会員　　個人　一口　　2000 円
　　団体　一口　　10000 円　（何口でも可）

【入会方法】振込用紙に、氏名、住所、電話番号、会費種別（個人/団体）をご記入の上、下記口座にお振込みください。その際に、誠に申し訳ありませんが、振り込み手数料をご負担くださいますようお願いいたします。

＜口座名義＞　トクテイヒエイリカツドウホウジンハッピー
　　ダイヒョウシャ　ヤマサキヒロノブ
＜口座番号＞　鹿児島銀行　西陵支店
　　普通預金　　口座番号　545722

お問い合わせ先　NPO 法人ハッピー　099-283-6120（担当：有村）